

## 2016 年度点検・評価シート

### I 評価項目・担当部局

対象部局	統括：大学自己点検・評価委員会	担当：全学教務委員会、FD 委員会
評価基準 4	教育内容・方法・成果	
中項目 4-3	教育方法 【自己評定：B】	
点検・評価項目(1)	4-3-1 教育方法および学習指導は適切か。	
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 【全学教務委員会】	
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 【全学教務委員会】	
	学生の主体的参加を促す授業方法 【全学教務委員会】	
点検・評価項目(2)	4-3-2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実 【全学教務委員会】	
	授業内容・方法とシラバスとの整合性 【全学教務委員会】	
点検・評価項目(3)	4-3-3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。	
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）【全学教務委員会】	
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 【全学教務委員会】	
	既修得単位認定の適切性 【全学教務委員会】	
点検・評価項目(4)	4-3-4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。	
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施 【FD 委員会】	
	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【全学教務委員会】	

### II 点検・評価

#### 【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-3-1	<p>授業形態については、教育目標・授業内容によって講義、演習、実験、実習、海外研修、CALL 教室利用など、さまざまな形態をとっている。</p> <p>少人数による学生と教員の双方向型および学生の主体的な参加を促す授業では演習が採用され、対話形式による語学学習では CALL 教室（板橋校舎 3 教室 98 人収容、東松山校舎 6 教室 288 人収容）が使われる。外国語学部や国際関係学部のように海外研修をカリキュラムに組み込んでいる学部、経営学部のように国内外でのインターンシップ実習を積極的に推進している学部もある(B4-3-55 d2-表 15)。</p> <p>講義科目では大規模授業をできるだけ抑制し、履修登録希望者が 400 人を超える授業は抽選を実施している。</p> <p>授業形態は、全教員がシラバスの「授業の形態」欄に明記し、受講者に周知している(A4-3-1)。</p> <p>履修登録単位数の上限については、従来 1～3 年次では設定していたが、4 年次には全学部で上限設定がなく、2010 年度の大学評価（認証評価）において改善を求める助言が付された。これを受け、すべての学部で全学年の履修登録のあり方を見直し、単位制度の趣旨に照らして、2013 年度に新しい上限設定（50 単位未満）の学則改正を行い、2014 年度入学者から適用している(A4-3-2 第 23 条の 6 第 2 項、第 23 条の 9 第 3 項、第 23 条の 12 第 2 項、第 23 条の 15 第 4 項、第 23 条の 18 第 3 項、第 23 条の 21 第 3 項、第 23 条の 24 第 2 項、第 23 条の 27 第 2 項、B4-3-55 d2-表 20)。各学年で履修登録できる単位数の上限は、学部・学科ごとに『履修の手引き』に明示している(A4-3-3、A4-3-4、A4-3-5、A4-3-6、A4-3-7、A4-3-8、A4-3-9、A4-3-10)。</p> <p>学習指導については、専任教員はシラバスの「連絡先・連絡方法」でオフィスアワーの時間を示し、授業時間外の指導を行う体制をとっている。非常勤講師は、オフィスアワーに代わるものとして、授業終了後の教室で、また電子メールなどの方法により時間外の指導を行う。これらの情報はシラバスのほか、DB ポータル（本学ホームページ内のポータルサイト）、掲示等を通じて学生に周知されている（A4-3-1）。</p> <p>学生の主体的な参加を促す授業については、各学部・学科で演習、PBL 型授業などとおして積極的な取り組みが行われている。</p> <p>大学院研究科では、研究指導計画に基づき、適切な研究指導・学位論文作成指導が行われている。</p>
4-3-2	<p>本学はすべての学部・研究科において、全学統一の書式でシラバスを作成し、ホームページで学生に公表している(A4-3-1)。シラバスに盛り込まれる項目・情報は、以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①授業の概要</li> <li>②授業の到達目標</li> <li>③授業の形態</li> <li>④授業計画（半期 15 回分×2）</li> <li>⑤授業外の学習</li> </ol>

	<p>⑥教科書 ⑦参考文献など ⑧成績評価の方法・基準（評価方法・割合・評価基準） ⑨履修上の注意 ⑩連絡先・連絡方法など（研究室・E-mail address・オフィスアワーなど） ⑪その他</p> <p>本学は、2010年度の大学評価（認証評価）において、シラバス記載内容に教員間で精粗の差があり、成績評価基準が不明確な場合が見られるとの助言を付された。これを受け、「シラバス改善検討プロジェクト委員会」を設置して Web シラバスの統一書式を作成し、2013年度のシラバスより導入した。新しい書式によるシラバス作成にあたっては、教員によって精粗が生じないように、記入上の留意事項等を示して周知を図り、シラバスの記載内容が適正かどうかをチェックする体制を各学部・研究科内に整えた（B4-3-19）。</p> <p>授業内容・方法とシラバスとの整合性については、毎年度の「学生による授業評価アンケート」で質問項目を設けて検証している。2014年度のアンケート結果では、教員はシラバスを授業に反映させていたかの設問に対して、全学平均で 62.1%の学生が肯定的な回答（「非常にそう思う」「そう思う」）をしている（B4-3-55 d2-表 23）。</p>
4-3-3	<p>本学は成績評価と単位認定について、「学業の成績は、S・A・B・C・D及びEに区分し、S・A・B及びCを合格、Dを不合格、Eを評価の対象外とする」と学則および大学院学則に定めている(A4-3-2 第 21 条、A4-3-13 第 13 条)。成績評価は、定期試験、レポート・論文などによって行われる。評価の基準は、評点 100～90 がS、89～80 がA、79～70 がB、69～60 がC、59 以下がD、不受験・レポート不提出などによる評価対象外がEである。単位は授業内容、半期・通年の別などによって、1 単位、2 単位、4 単位、6 単位などと定められている。これらの情報は各学部の『履修の手引き』、研究科共通の『大学院の手引き』等に掲載され、学生に周知が図られている（A4-3-3、A4-3-4、A4-3-5、A4-3-6、A4-3-7、A4-3-8、A4-3-9、A4-3-10、A4-3-14、A4-3-11、A4-3-12）。</p> <p>個々の教員による成績評価の方法と基準は、評価方法・割合・評価基準をシラバスに掲載し、学生に周知を図っている（A4-3-1）。本学では、学士課程の学生は自己の成績評価に疑義がある場合、学部事務室を通じて成績調査依頼を行うことができ、担当教員は成績評価の方法・基準、根拠を示すことが求められる。この制度により、学生の不合理な不利益は未然に防止される（A4-3-3、A4-3-4、A4-3-5、A4-3-6、A4-3-7、A4-3-8、A4-3-9、A4-3-10）。</p> <p>入学前に他大学等で修得した単位（既修得単位）については、大学設置基準に準拠し、学則第 19 条の 4 において、60 単位を上限として本学の単位に認定できることが定められている（A4-3-2 第 19 条の 2～4）。当該学生から申請がなされた場合、各学部教授会は、この学則に基づき、厳正な審査のうえ、単位の認定を行っている。</p> <p>以上のように、成績評価と単位認定は、規程に従って適切に行われている。</p> <p>なお、本学は 2016 年度入学者から学士課程教育に GPA を導入し、成績評価と単位認定の公平性、客観性をより高めることにした。</p>
4-3-4	<p>本学の学士課程における教育成果を組織的かつ定期的に検証する取り組みとしては、第一に、「学生による授業評価アンケート」がある（B4-3-24）。このアンケートは、非常勤講師を含めた全教員を対象に、毎年度実施するもので、2000 年度に第 1 回目が行われて以来、2015 年度で 14 回を数える。実施の主体となるのは、大東文化大学ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下、FD 委員会）で、その目的と任務は FD 委員会規程に定められ、現在は副学長が委員長を務めている（B4-3-25）。授業評価アンケートの目的は、「授業に対する学生の率直な意見を聴取して本学の授業内容及び教育方法の改善に資すること」（2014 年度『学生による授業評価と大学教育』）にある。</p> <p>アンケート結果は、数値化・グラフ化・データ化されて各担当教員にフィードバックされる。教員はそれに対し、改善点などをまとめたコメントを FD 委員会に送付する。アンケート結果の分析は、各学部・学科の FD 組織が行い、全学の FD 委員会が全体をまとめる。学部・学科ごとに結果の分析を行うのは、授業に対する学生の意見を基本単位の学部・学科で集約し、組織として授業改善の FD 活動につなげるためである。集計結果・分析・コメント等は報告書『学生による授業評価と大学教育』にまとめて、学内外に公表（全学データおよび報告は冊子として、またホームページで学内外へ公開。個々の結果と教員コメントは学内公開）される（B4-3-26）。</p> <p>以上が本学における「学生による授業評価アンケート」の概要であるが、結果を授業改善に結びつける作業とその有効性の検証は、組織としての取り組みは必ずしも十分とは言えず、その多くが教員個人個人の努力に委ねられている。</p> <p>また、組織的な検証として、2011 年度より実施している「卒業生アンケート」がある（B4-3-27）。これは教育の成果を測定し、教育と学生生活の課題についてデータを得るために、3 月の卒業式時に FD 委員会が実施しているものである。</p> <p>卒業生アンケートの結果は、学科別集計表とともに分析報告書が作成され、『FD 報告書』およびホームページで公表される（B4-3-28、B4-3-29）。</p>

	<p>研究科では「学生による授業評価アンケート」も「卒業生アンケート」も実施していない。</p> <p>教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした組織的な研修・研究については、大学全体の取り組みとして、FD 委員会の開催による研究会がある。2010 年度から 2015 年度までの開催状況は、別表に示すとおりである(B4-3-30)。</p> <p>研究会の報告内容・質疑応答等は、『FD 報告書』およびホームページで公表される (B4-3-28、B4-3-29)。毎回、報告をめぐって活発な議論が行われるが、教員の参加数は必ずしも多くなく、出席率を高めるのが課題である。</p> <p>大学が取り組む FD 活動は、『学生による授業評価と大学教育』『FD 報告書』のほか、FD 委員会発行のニューズレター『FD ニュース』で教職員に周知が図られる(B4-3-31)。</p>
--	---

**【効果が上がっている事項】**

4-3-1	
4-3-2	シラバスについては、全学部・研究科において統一書式で作成し、中身のチェック体制を築いたことで、教員間で記載内容の精粗はおおむね解消されている。記載項目も授業概要・授業計画・成績評価の方法などを網羅し、学生に必要な情報が示されている (A4-3-1、B4-3-19)。
4-3-3	
4-3-4	

**【改善すべき事項】**

4-3-1	
4-3-2	
4-3-3	シラバスの記載内容の学生への周知が必ずしも十分ではない。本学は Web シラバスを導入しポータルサイトで公開しているが、学生のアクセスが十分でないため、シラバスの重要性について啓発を行うとともに、初回授業時に担当教員が直接周知するなどの改善が必要である(B4-3-24)。
4-3-4	

**本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）**

A4-3-1	大東文化大学・大学院シラバス (CD-R) 大東文化大学ホームページ (Web シラバス) <a href="http://www.daito.ac.jp/campuslife/syllabus/index.html">http://www.daito.ac.jp/campuslife/syllabus/index.html</a> <既出>A4-2-16
A4-3-2	大東文化大学学則 <既出>A1-1
A4-3-3	文学部 履修の手引き 平成 28 (2016) 年度入学生用 <既出>A1-9
A4-3-4	経済学部 履修の手引き 平成 28 (2016) 年度入学生用 <既出>A1-10
A4-3-5	外国語学部 徑 (履修の手引き) <既出>A4-1-9
A4-3-6	法学部 履修の手引き 平成 28 (2016) 年度入学生用 <既出>A1-11
A4-3-7	国際関係学部 ガイドブック 平成 28 (2016) 年度入学生用 <既出>A1-12
A4-3-8	経営学部 履修の手引き 平成 28 (2016) 年度入学生用 <既出>A1-13
A4-3-9	環境創造学部 履修の手引き 2016 <既出>A4-1-13
A4-3-10	スポーツ・健康科学部 羅針盤 (履修の手引き) 2016 <既出>A1-14
A4-3-11	大学院履修要項アジア地域研究科 2016 年度 <既出>A1-15
A4-3-12	大学院履修要項スポーツ・健康科学研究科 2016 年度 <既出>A1-16
A4-3-13	大東文化大学大学院学則 <既出>A1-2
A4-3-14	2016 (平成 28) 年度 大学院の手引き <既出>A1-17
B4-3-19	2016 年度シラバス (授業計画) の作成依頼について
B4-3-24	学生による授業評価アンケートと大学教育 2015 年度 <既出>B3-12
B4-3-25	ファカルティ・ディベロップメント委員会規程
B4-3-26	大学ホームページ 授業評価アンケート報告書 <a href="http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/jugyohyoka_houkokusho.html">http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/jugyohyoka_houkokusho.html</a>
B4-3-27	2015 年度大東文化大学卒業生アンケート結果
B4-3-28	FD 報告書 2015 年度
B4-3-29	大学ホームページ (卒業生アンケート) <a href="http://www.daito.ac.jp/sotsugyosei_ankeito.html">http://www.daito.ac.jp/sotsugyosei_ankeito.html</a>
B4-3-30	大東文化大学 FD 研究会 (FD フォーラム) 参加者数推移 (2010~2015)
B4-3-31	FD ニュース第 10 号
B4-3-32	欠番

B4-3-53 大東文化大学ホームページ（自己点検・評価活動） http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html <<既出>>B1-16 B4-3-55 大学データ集 <<既出>>B1-22
〔追加資料〕

Ⅲ【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標	目標達成の指標となるもの	評価					
		2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～2018)	〔全学教務委員会〕 4-3-1 ・大規模授業（400名以上）を抑制し、履修登録者が教室の収容定員を超える授業を解消する。	→			S		
	〔全学教務委員会〕 4-3-4 ・シラバスの記載内容が学生に周知徹底されている。	→			B		
	〔全学教務委員会〕 4-3-3 ・公平性と客観性を担保した成績評価法として GPA を導入する。	→			A		
	〔全学FD委員会〕 4-3-4 ・全学 FD 研究会（研修会）の回数と参加者数を増やす。	→			B		
	〔全学FD委員会〕 4-3-4 ・授業評価アンケート制度の見直しを行い、目に見える授業改善に結びつける。	→			B		
	〔全学FD委員会〕 4-3-4 ・卒業生アンケートにおける授業関連の設問を充実させる。	→			C		
14年度目標	〔全学教務委員会〕 4-3-1 ・授業の適正規模について学部学科で検討を始める。	→	A				
	〔全学教務委員会〕 4-3-2 ・シラバス記載について教員間の精粗を解消するため、各学部でチェックを継続して実施し、より一層の充実を図る。	→	A				
	〔全学教務委員会〕 4-3-4 ・シラバスの記載内容を学生に周知させるために、各教員が、初回授業時にシラバスを学生に配布し読み合わせをする、又はシラバスの内容を学生へ十分に説明する。	→	B				
	〔全学教務委員会〕 4-3-3 ・GPA の導入について全学的な合意を得て、大東版 GPA の制度設計に着手する。	→	S				
	〔全学FD委員会〕 4-3-4 ・全学 FD 研究会（研修会）を年4回開催する。	→	B				

	〔全学FD委員会〕 4-3-4 ・授業評価アンケート制度について、実施科目数・実施回数等が適切かどうか、検討を行う。 ・制度見直しの一環として、全学FD委員会だけでなく、学部・学科単位でも授業評価アンケートの分析を行う。	・実施科目数・実施回数等が適切かどうかの検討結果が、学内に公表されている。 ・学部・学科からも分析結果の報告書が提出されている。	→	S				
	〔全学FD委員会〕 4-3-4 ・卒業生アンケートにおける授業関連の設問の見直しを行う。	・新しい質問項目によるアンケートが実施されている。	→	B				
15年度 目標	4-3-2 ・シラバス記載について教員間の精粗を解消するため、各学部等でチェックを継続して実施する。	・シラバス項目の未記入件数が0である。		S				
	〔全学FD委員会〕 4-3-4 ・全学FD研究会(研修会)の充実施方法を工夫する。	・外部団体の専門家を招聘し、研究会を開催する。 ・他部局と協働し研究会を開催する。		A				
	〔全学FD委員会〕 4-3-4 ・授業評価アンケート導入時から今までの振返り作業を行う。	・授業評価アンケートの振返り作業を行い、委員会で報告する。		A				
	〔全学FD委員会〕 4-3-4 ・卒業生アンケートの設問についての妥当性を検証する。	・アンケートの設問の妥当性を検証する。		A				
16年度 目標	〔全学教務委員会〕 4-3-4 シラバス記載内容の学生への周知度を上げる。	学生による授業評価アンケートにおいて、「シラバスの内容を理解しているか」への肯定的な回答が前年度を上回っている。			B			
	〔全学FD委員会〕 4-3-4 ・全学FD研究会(研修会)の内容を工夫する。	・全学プロジェクトと協働して、研究会を実施する。			S			
	〔全学FD委員会〕 4-3-4 ・授業評価アンケートの実施方法について、検証を行う。	・委員会内にW. G. を設置し、左記の通り検証する。			A			
	〔全学FD委員会〕 4-3-4 ・学生のシラバス熟知度を授業評価アンケートで図る方向性を検討し、模索する。	・委員会内で、検討を行う。			C			
	〔全学FD委員会〕 4-3-4 ・卒業生アンケートの設問の改訂を検討する。	・現在の設問を見直し、必要であれば設問を改訂する。			S			